

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 金沢市立泉小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒921-8031  
金沢市野町3丁目11番1号

E-mail [izumi-e@kanazawa-city.ed.jp](mailto:izumi-e@kanazawa-city.ed.jp)

Website \_\_\_\_\_

児童生徒数 男子 282名 女子 278名 合計 560名  
児童・生徒の年齢 7歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

#### 1 1年間の主な活動内容

##### 〔はじめに〕

本校は、金沢市の中心部に位置し、平成26年度、旧野町小学校と旧弥生小学校が統合して発足した。現在、全校児童は、565名、教職員41名である。

地域は、加賀藩の仏具や和菓子、加賀友禅などの文化を創出し、加賀藩の伝統産業を支えてきた。藩政期の頃より、旧北陸道（泉通り）と旧鶴来街道（六斗林通り）沿いに人家や寺社が建ち並ぶ歴史のある町並みであったが、戦後は様々な公共施設ができ、文教地区として発展し、今に至っている。

本年度もユネスコスクールの認定を受け、豊かな教育資源を活用した持続発展教育の実践に取り組んでいる。

##### (1) 取り組みの概要

ユネスコスクールとして、環境教育、国際理解教育、伝統や文化に関する教育などの分野を通じて、人と社会・自然・世界などのかかわりについて学習する機会を設けるとともに、子どもたちが自己の価値観や生き方を見直し、持続可能な社会の構築に向けて行動できるように取り組む。

そこで、本校では、総合的な学習の時間や生活科を中心に各教科との連携を図りながら、地域の社会事象や自然環境など子どもたちが育つ地域を学習の場として設定し、具体的な活動や体験を通して学習を行っている。

##### (2) 実践例

###### ■ 1年生「たのしいあきいっぱい」

子どもたちは、諸感覚を使って秋を感じたり、身近な秋の物でつくって遊んだりして、自然の不思議さや、工夫する面白さ、友だちと遊びを創り出す楽しさを感じることができた。

また、同じ学年の友だちだけではなく、年長児とも交流し、かかわる対象を広げ、年長児に秋の遊びを楽しんでもらえたことが子どもたちの喜びや自信となり、主体的に学ぶ姿につながった。



###### ■ 2年生「みんなで つかう まちの しせつ」

身近な公共施設として校区の泉野図書館を見学した。図書館に出かけ、本を読んだり、借りたりするなどして、実際に図書館を利用したことで、図書館や本などの図書館にある公共物は、みんなで使うものであることを再認識した。また学校司書の方とかかわったことは、わたしたちの生活を支えている人々がいることが分かり、本を大切に使ったり、マナーに気を付けて、正しく利用したりしようとする姿につながった。



###### ■ 3年生「泉小校区の伝統文化」

ふだん何気なく過ごしていた自分の校区だが、改めて見直すと古くから残るものが多いことに気付いていった。子どもたちは、校区に古くから残る神社・寺院、店などの建造物や町並みをグループに分かれて自分たちで見聞きして調べていった。取材先の人に出会い、お話を聞く中で、自分たちの住む泉小校区に、古くから残るものが多いのは、それらを大切に守り、残している人があることに気付いた。こうした気付きは、自分たちの住む泉小校区への愛着や誇りをもつことにつながった。



#### ■ 4年生「伝統が息づくまち金沢」

校区の友禅職人の木村さん、藤村さんに教えていただきながら加賀友禅の制作体験をした。子どもたちは加賀友禅の制作の難しさを体で感じることで改めて職人さんの技のすごさに気付くことができた。また、制作を通して加賀友禅に対する思いを深めた。

昔から残る加賀友禅だが、最近は着物を着る人も少なくなり、職人も減っている。こうした加賀友禅の置かれた現状を知った子ども達は、昔から続く加賀友禅をこれからも残していきたい、そのため多くの人に加賀友禅のよさを発信したいと主体的に活動する姿が見られた。



#### ■ 5年生「加賀野菜を調べ知る」

加賀野菜という言葉は聞いたことがあっても、実はよく知らなかった子ども達。歴史・食べ方・育て方・旬など加賀野菜について調べていった。さらに調べてみると、加賀野菜の中には生産者、栽培面積が減っている品目があることを知った。このままでは、加賀野菜は途絶えていくのではないかという思いをもつ。調べていく中で校区の松下種苗店の松下さんに出会った。種を途絶えさせると二度とその野菜は作ることができなくなる。食文化としての加賀野菜を残したいという松下さんの思いにふれたり、農家の人や金沢市、地域のお店も加賀野菜を守っていくために取り組んだりしていることを知った子ども達は、消費者である自分たちがまず加賀野菜を食べること、そして、まわりの人にも加賀野菜を食べよう伝えようという思いをもった。



#### ■ 6年生「I・相・愛 ～初めまして新しい私～」

子どもたちが学習前、障害をもつ人に対する思いは「かわいそう」「大変そう」等の思いであった。しかし、実際に「アイマスク体験」や「車いす体験」をしたり、車いすバスケットボール選手の宮島さんや岩崎さん、半田さんと出会い、車いすバスケットボールを体験したり、お話を聞いたりし、体が不自由でも前向きに、懸命に生きる姿にふれたことで子どもたちの思いは変わっていった。障害があるとかないとかで特別扱いするのではなく、助け合っていくことが大切だという思いを持ち、自分のこれからの生き方を考えるきっかけとなった。



### (3) 成果と課題

総合的な学習の時間や生活科を中心に各教科との連携を図りながら、地域の社会事象や自然環境など子どもたちが育つ地域を学習の場として設定し、具体的な活動や体験を通して学習を行ってきたことで、子どもたちは興味関心をもって学習に取り組むことができた。また、日常生活や社会に目を向けさせ、子どもたちが自ら課題を設定するように心がけてきたことで少しずつ問題解決や探究活動に主体的に取り組もうとする姿も見られ、発信したいという思いも見られてきた。

しかし、学んだことをまとめ、発信するには、具体的な相手意識をもつことが大切である。学んだことを自分たちだけにとどめるのではなく、発信する相手を意識し、相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現・発信する力を付けていくようにすることが課題である。

2 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）